

第5回 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会

日 時：平成18年1月22日（月）10時30分～

場 所：松村ビル 地下会議室

次 第

- 1 開会
- 2 資源循環局長挨拶
- 3 議事
 - (1) 整備計画（技術検討）について
 - (2) その他
- 4 報告事項
 - (1) 第4回委員会議事録について
 - (2) その他
- 5 閉会

配付資料

資料1 整備計画（技術検討）

資料2 第4回戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会議事録

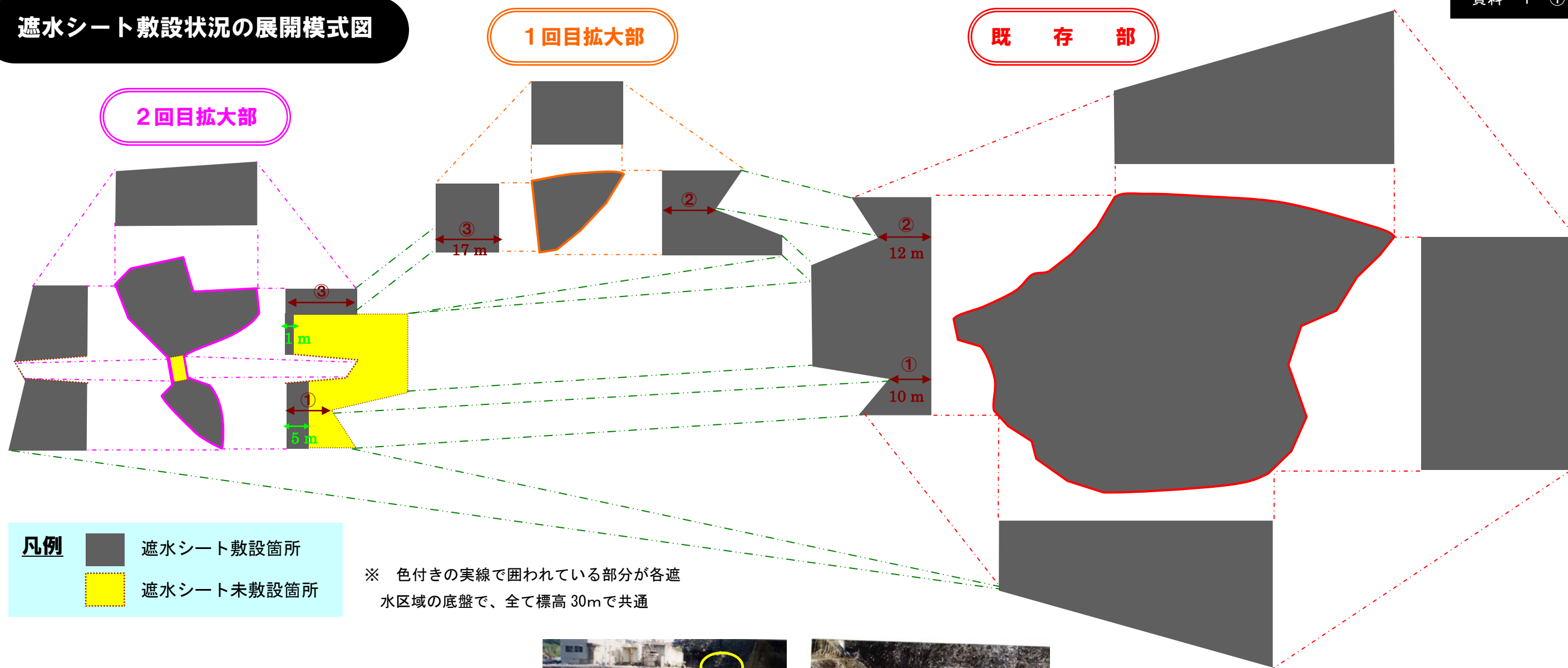
戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

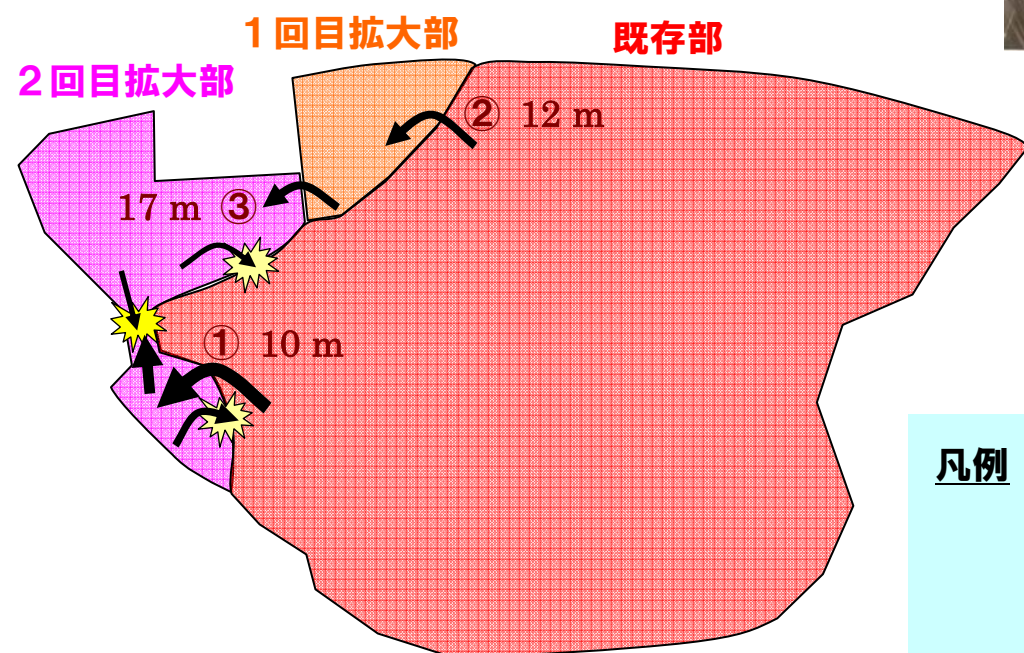
氏 名	所 属 等	専 門 分 野
あいざわ よしはる 相澤 好治	北里大学医学部教授	医学、公衆衛生学
いまいずみ しげよし 今泉 繁良	宇都宮大学大学院教授	土質工学、 環境地盤工学
○さるた かつみ ○猿田 勝美	神奈川大学名誉教授	環境科学
◎なかすぎ おさみ ◎中杉 修身	上智大学大学院教授	環境工学
のま ゆきお 野馬 幸生	(独) 国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 物質管理研究室 室長	廃棄物化学
まつふじ やすし 松藤 康司	福岡大学工学部教授	廃棄物工学
やぎ よしお 八木 美雄	(財) 廃棄物研究財団 常務理事	廃棄物工学、 廃棄物行政
オブザーバー		
はやし りか 林 里香	環境省 関東地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課長	

◎委員長、○副委員長

遮水シート敷設状況の展開模式図

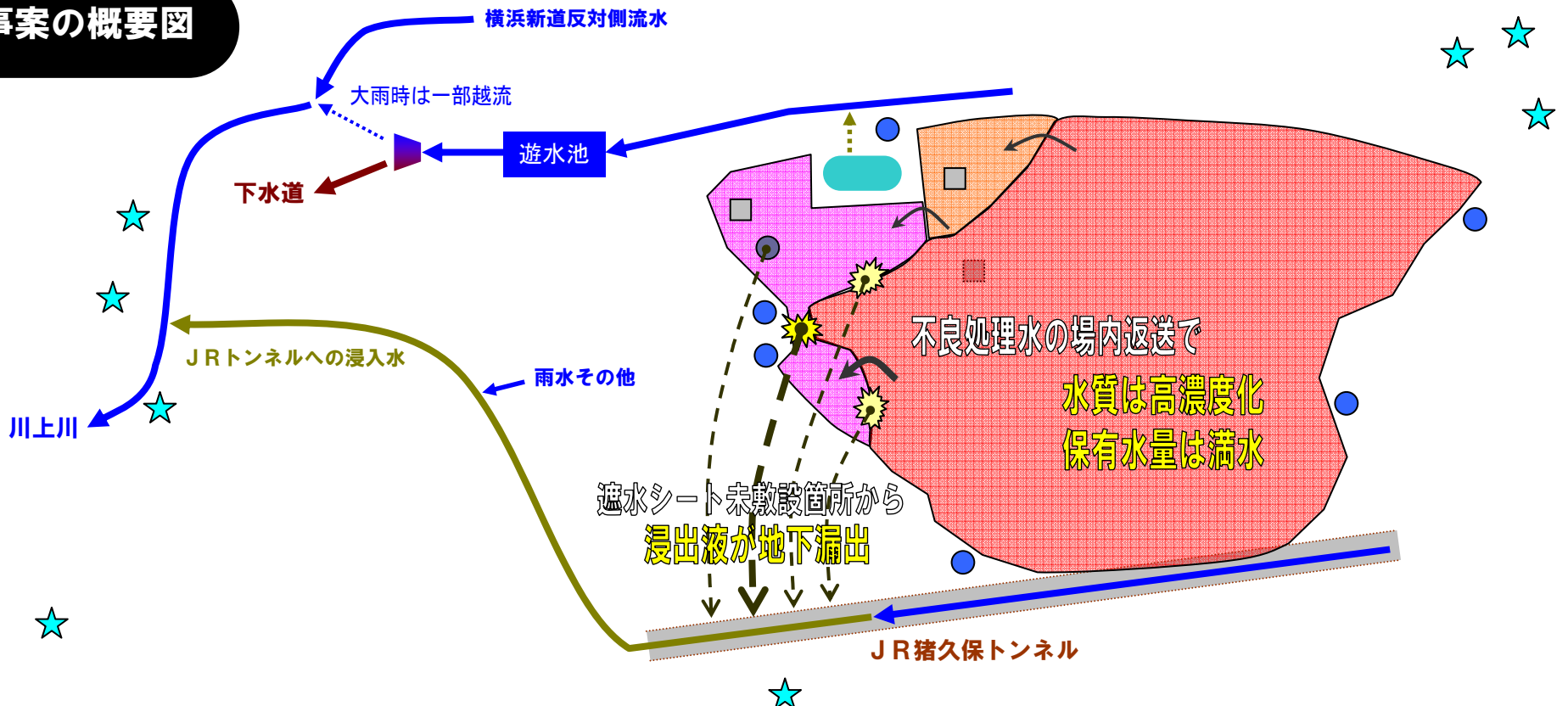


処分場内での浸出液の推定流向



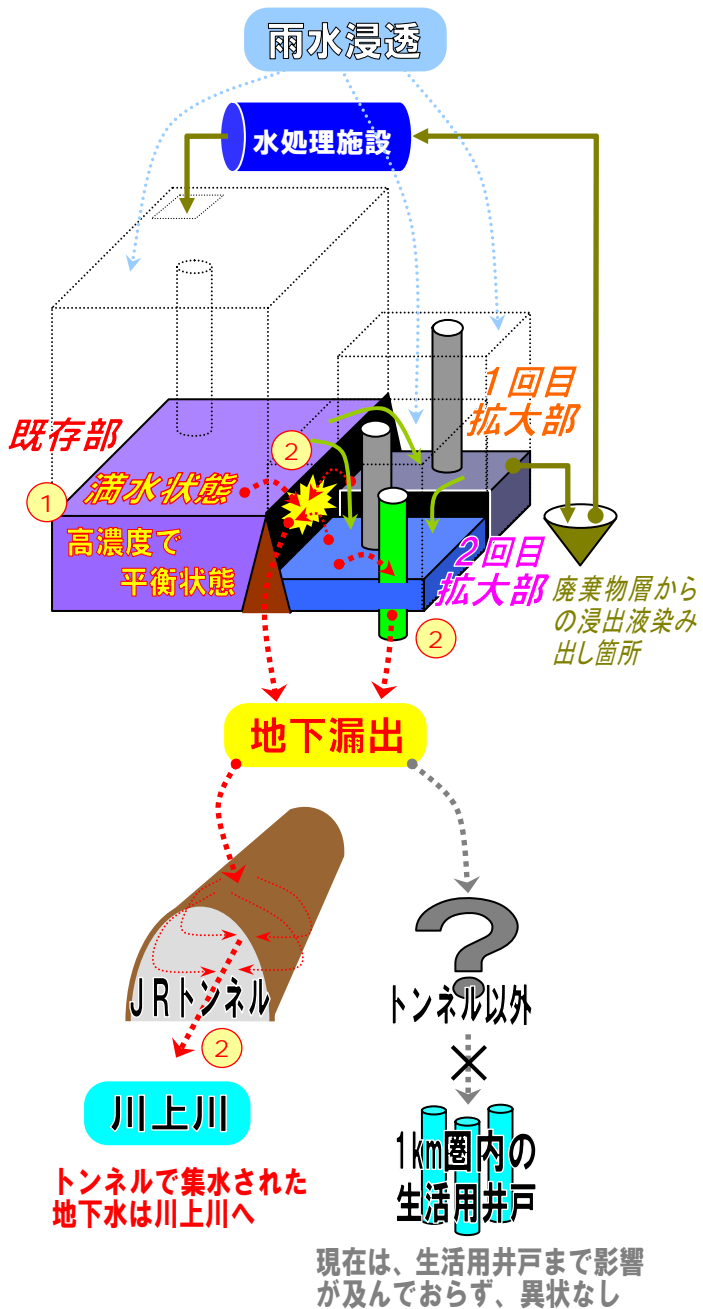
- 遮水区域内の谷の高さから推定される既存部から 2 回目拡大部への流下ルート
 - 第一の流下ルート： ①の谷
 - 第二の流下ルート： ②の谷→③の谷
 - 遮水シート未敷設箇所の高さから推定される 2 回目拡大部からの地下漏出箇所
 - 第一の漏出箇所： 2か所の掘削区域の間にある未掘削の遮水シート未敷設箇所
 - 第二の漏出箇所： 既存部との間の法面の遮水シート未敷設箇所
- ※ 他にも地下水観測井 No.7 の接合不良箇所から地下漏出あり

事案の概要図



- 凡例**
- 既存部（平成4年5月の施設変更届までに係る遮水区域）
 - 1回目拡大部（平成9年12月の変更許可に係る遮水区域）
 - 2回目拡大部（平成11年6月の軽微変更届に係る遮水区域）
 - 水処理施設
 - 浸出液揚水井
 - 遮水シート未敷設箇所
 - 埋立区域外の地下水観測井
 - 廃棄物層を貫通している地下水観測井
 - 処分場から1km圏内の生活用井戸
 - 水路等の流れ
 - 場内浸出液の流れ
 - 地下水流れ

生活環境の保全上の支障が生じるおそれ



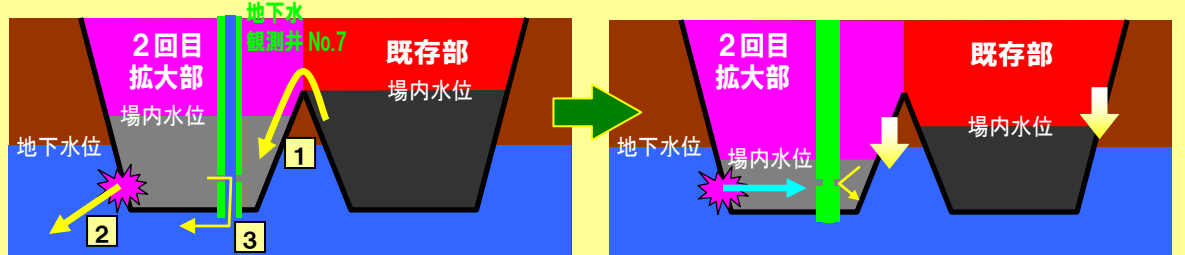
生活用井戸まで影響が及べば支障が生じる

① 排水基準不適合処理水の場内返送による場内の満水状態及び浸出液水質の濃縮悪化

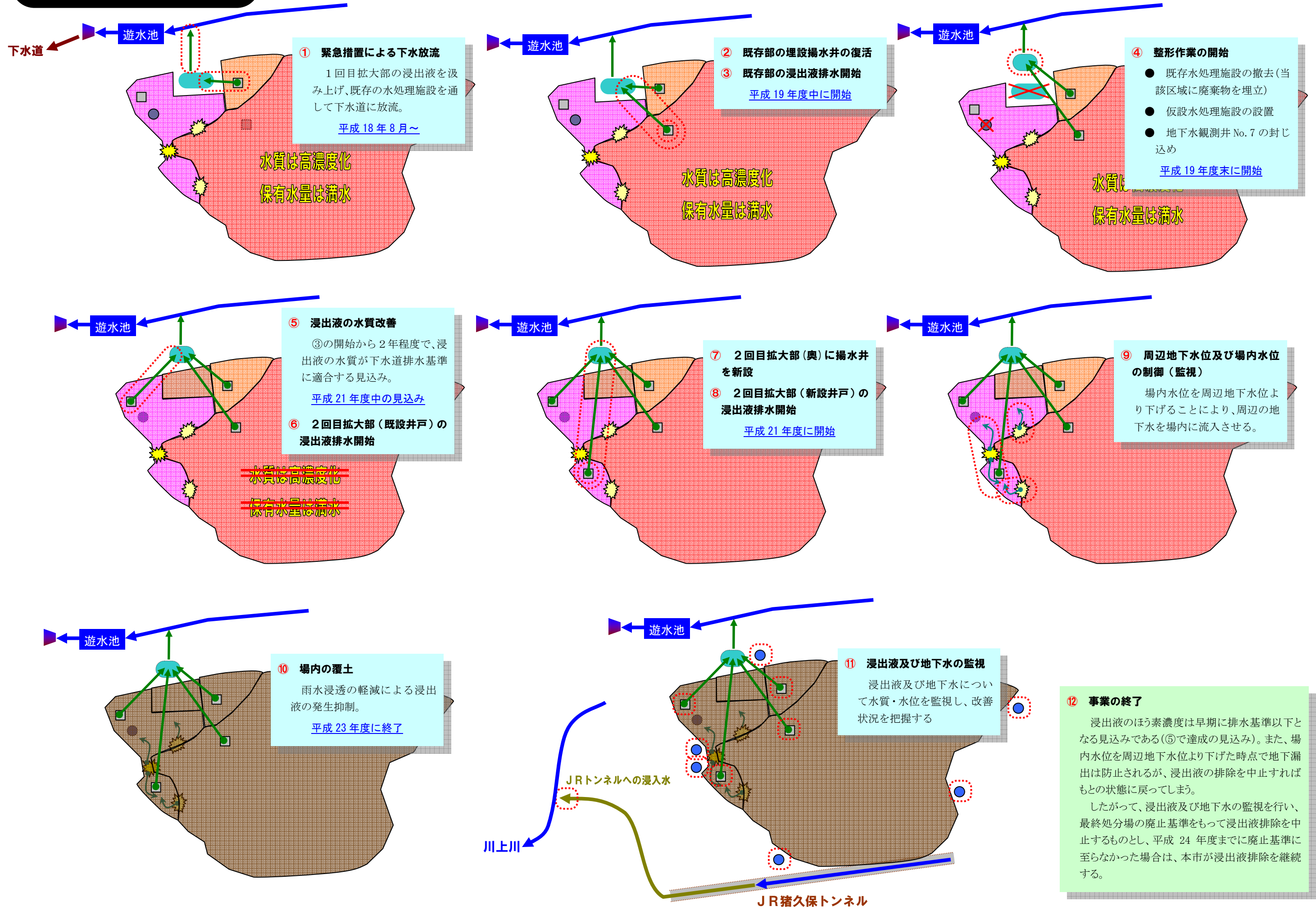
- 改善目標：浸出液のほう素濃度が排水基準以下（10mg/l以下）にする
- 方針：悪水質の浸出液を排水しながら、適度に場内へ雨水浸透させる
 - 既存部の浸出液を排水する
 - 埋設している既存部の揚水井を掘削して復活させる
 - 当面の間は緊急措置として浸出液を下水道へ排水する
 - ・ 緊急措置による水質改善が見込まれるため、水処理施設の新設計画はこの見込みを考慮する（緊急措置の開始から2年後には排水基準以下になる見込み）
 - ・ 浸出液の水質改善状況を監視する

② 既存部の悪水質の浸出液が2回目拡大部に越流し、2回目拡大部の遮水シート未敷設箇所及び地下水観測井 No.7 の接合不良箇所から場外に地下漏出している

- 改善目標：浸出液の地下漏出を防止する
- 方針①：既存部の水位を推定越流箇所（標高約40m）よりも低くする
 - 既存部の浸出液を排水する
 - 場内を覆土し、雨水浸透量を低減させる
 - 既存部の内水位を監視する
- 方針②：2回目拡大部の水位を周辺の地下水位（標高約39m）よりも低くする
 - 2回目拡大部の浸出液を排水する
 - 2回目拡大部の既設揚水井を修繕する
 - 2回目拡大部（奥）に揚水井を1か所新設する
 - 当面の間は緊急措置として浸出液を下水道へ排水する
 - 場内を覆土し、雨水浸透量を低減させる
 - 周辺地下水位と2回目拡大部の内水位を監視しながら制御する
- 方針③：地下水観測井 No.7 の接合不良箇所を塞ぐ（コンクリート注入による封じ込め）



対策手順案(処分場汚水関係)

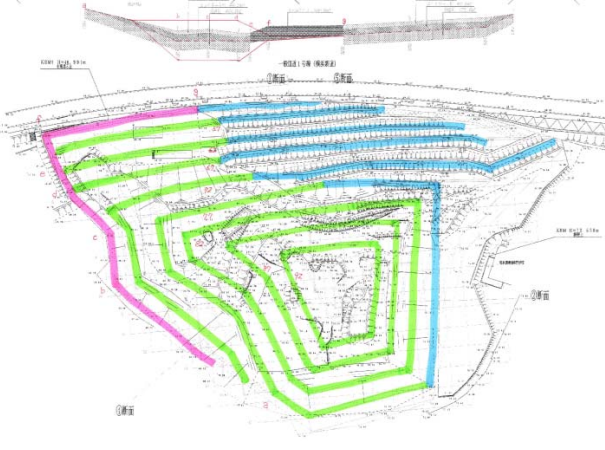
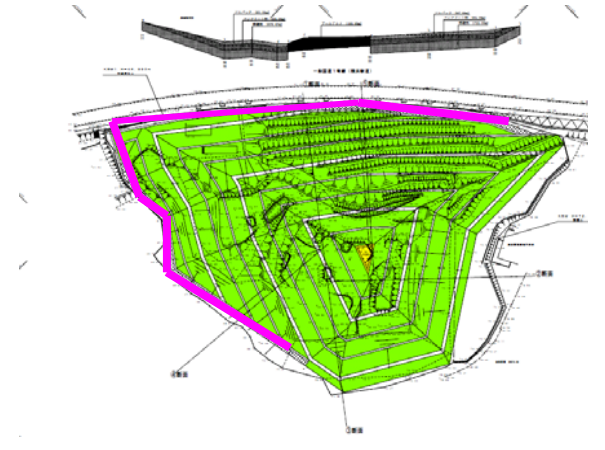



JRトンネルへの浸入水

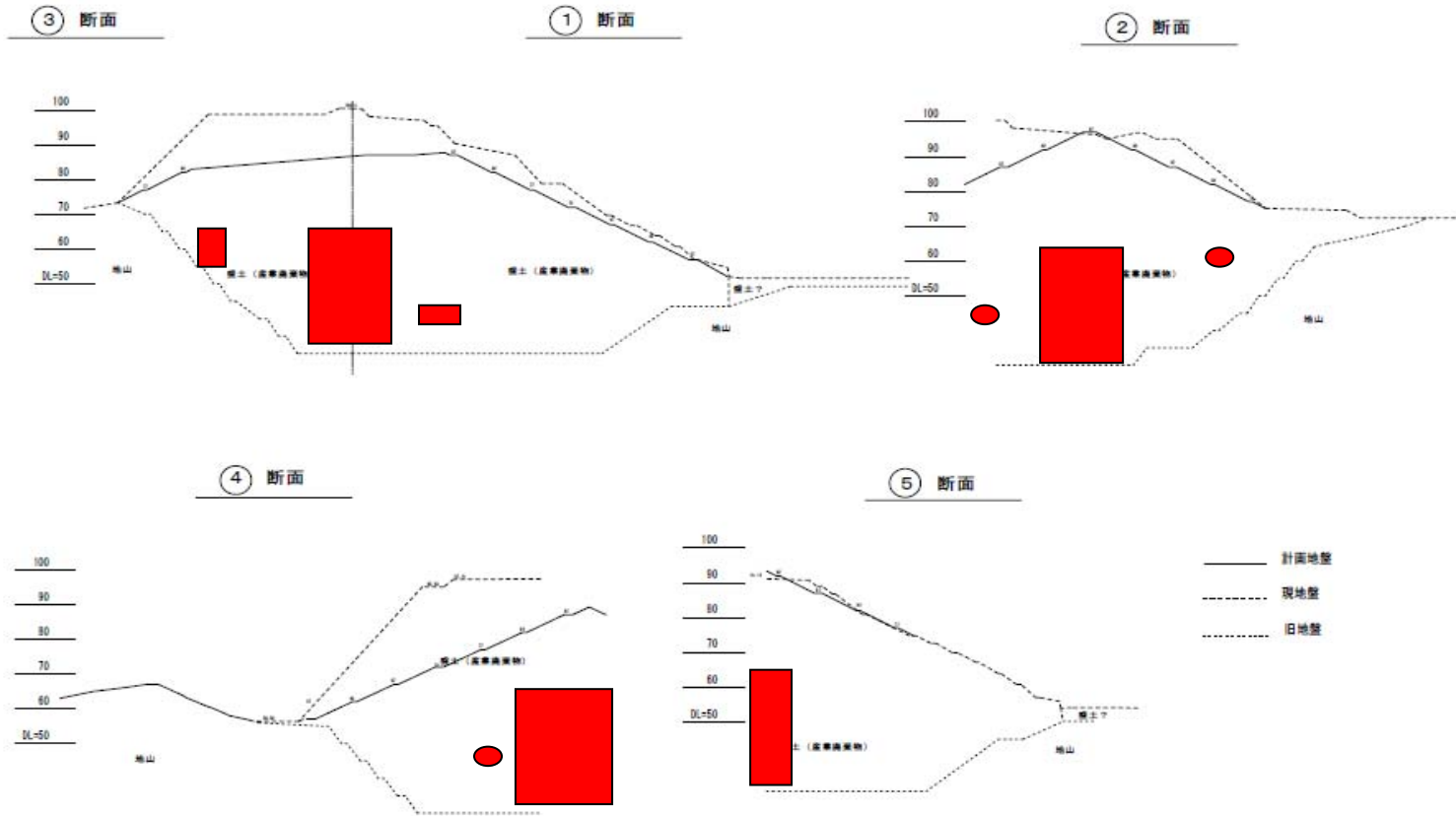
川上川

JR猪久保トンネル

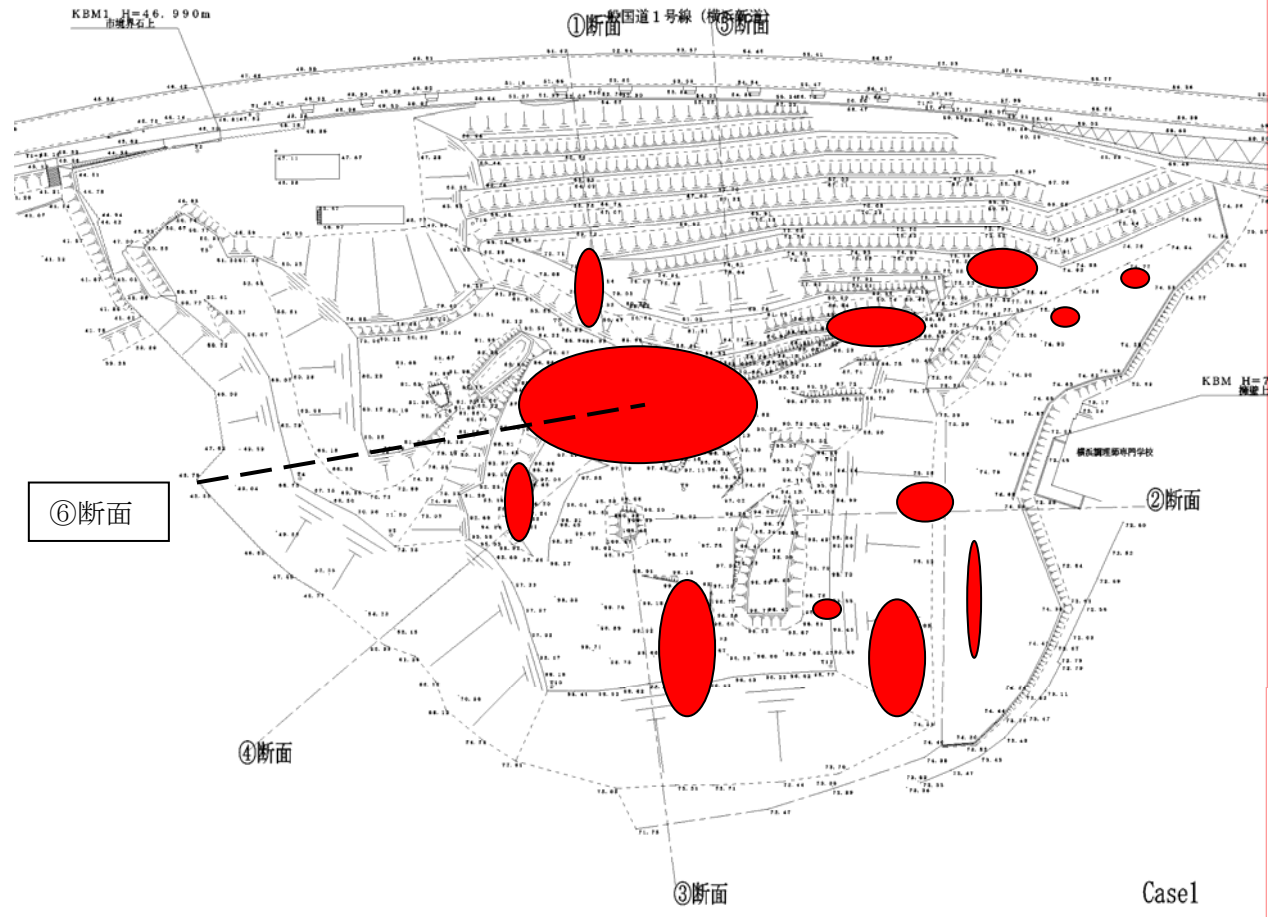
崩落防止工法の比較

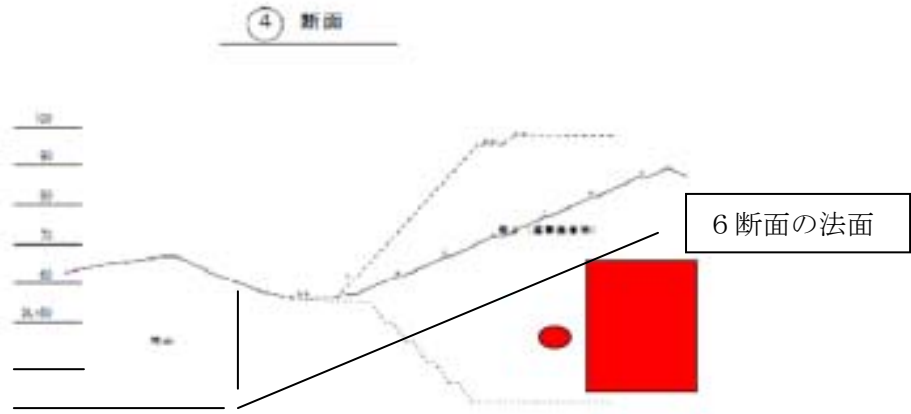
改善案平面図	切土量 (m3)	盛土量 (m3)	処分量 (m3)	切盛面積 (m2)	備 考
	約 7 万	約 6 万	約 1 万	約 2 万	側道沿いの擁壁高さを数メートル、林側の擁壁高さを最大約 2.5メートルとした案。
	約 7 万	約 8 万	0	約 2 万 8 千	側道沿いと林側のほぼ全てに高さ 1.0メートル程度の擁壁を設置した案。
	約 1.4 万	約 2 万	約 1.2 万	約 2 万	擁壁を作らず、法面を緩くする案。

アスベストの埋立位置（擁壁を作らず法面を緩くした案）



平面図





本案件に適用可能な擁壁の種類と概要

廃棄物と土留めにある程度距離がある場所



廃棄物と土留めに距離が取れない場所



土留め概念図	概要
	<p>重力式擁壁 高さ約5メートルまで。 地盤が良好な場合に使用する。</p>
	<p>逆T型(L型)擁壁 高さ約3～10メートルまで。 杭基礎でも用いることができる。</p>
	<p>補強土擁壁 高さ約3～18メートルまで。 比較的弱い地盤でも用いる。</p>
	<p>深礎杭式擁壁 高さの規定はないが、綿密な構造計算が必要。 重機の搬入が困難な場所に用いる。</p>

1 処分場汚水対策に関するモニタリング項目

項目	理由
浸出液水質	濃縮悪化した浸出液水質の改善状況を確認するため
既存部の場内水位	濃縮悪化した浸出液の既存部からの越流を防止するため
拡大部の場内水位	地下水位より場内水位を下げ、地下水を処分場内に逆流させることにより、地下漏出を防止するため
周辺地下水位	
周辺地下水質	地下漏出の改善状況を確認するため

2 崩落防止対策に関するモニタリング項目

(1) 工事中

項目	理由
アスベスト(大気中)	処分場に埋立てられている飛散性アスベストの掘削は行なわないが、万が一掘削廃棄物の中に飛散性アスベストが含まれていた場合の工事作業員や公衆等の健康被害防止のため。
臭気指数	埋立廃棄物中の悪臭物質による、工事作業員や公衆等の健康被害を防止するため。
可燃性ガス	埋立廃棄物中の可燃性ガスによる、火災の発生を防止するため。
有害ガス	埋立廃棄物中の有害ガスによる、工事作業員等の中毒や酸欠を防止するため。
廃棄物の変位	掘削・埋戻しに起因する廃棄物の変位を把握し、工事中の崩落事故を防止する。
擁壁の変位	工事中の擁壁に過大な圧力がかかると、滑動、転倒等が起こり、公衆災害が生じる可能性があるため、それを防止するために変位測定を行う。

(2) 工事後

項目	測定頻度
廃棄物の変位	埋立廃棄物の沈下等の変位測定を行い、不等沈下に起因する崩落等による公衆災害を防止する。
擁壁の変位	擁壁に過大な上載荷重や偏荷重等がかかる場合や、擁壁の材質に予測不能な劣化が生じた場合、擁壁の崩壊、滑動、転倒等が起こり、公衆災害が生じる可能性があるため、それを防止するために変位測定を行う。

第4回 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会議事録

- 日時** 平成18年12月19日(火)午後3時から午後4時30分まで
- 開催場所** 横浜市役所 5階特別会議室
- 出席者** (委員)
中杉委員長、猿田副委員長、今泉委員、野馬委員、松藤委員、八木委員
(オブザーバー) 関東地方環境事務所 林廃棄物・リサイクル対策課長
(横浜市)
資源循環局長、適正処理部長、産業廃棄物対策担当部長、技術担当部長、施設課長、
産業廃棄物対策課長、適正処理監視指導担当課長、他事務局4名
計11名
- 開催形態** 公開 (傍聴者 3人)
- 議事**
- 1 整備計画(技術検討)について
浸出液や地下水対策および崩落対策は総合的に検討することとした。
 - 2 その他
- (主な質疑・意見等)
- キャッピングと水対策は双方考慮して検討すること。
 - キャッピング用材は施工後の安定性を考慮すること。
 - 浸出液の汲出し方法について検討すること。
 - 地下水のモニタリングを継続すること。
 - 廃棄物の沈下などについても考慮すること。
 - 法面の角度は30度程度まで緩くするべき。
 - アスベスト廃棄物については安全対策を十分に検討すること。
 - JRトンネルなど構造物への影響を与えにくい工法とすること。
- 報告事項**
- 1 第3回委員会議事録について
 - 2 戸塚区品濃町処分場検証結果報告書について
- 資料**
- 1 整備計画(技術検討)について
 - 2 報告事項
 - ・ 第3回戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会議事録
 - ・ 戸塚区品濃町最終処分場検証結果報告書の概要